

## 安全データシート

整理番号： CHS10  
作成： 2013/01/31  
改訂： 2017/04/01

商品名： カクタスノルマルパラフィンSHNP

## 1. 化学物質等及び会社情報

化学品の名称： カクタスノルマルパラフィンSHNP  
会社名： JXTGエネルギー株式会社  
住所： 〒100-8162 東京都千代田区大手町一丁目1番2号  
担当部門： 添付資料参照  
(TEL:添付資料参照, FAX:添付資料参照)  
緊急連絡電話番号： 添付資料参照  
推奨用途： 化学原料、工業用溶剤等

## 2. 危険有害性の要約

特有の危険有害性： この商品は、記載の法令に該当しますので、該当する法令の内容を確認し取扱ってください。  
危険物第4類 第3石油類(消防法 危険物)

GHS分類  
引火性液体 区分  
吸引性呼吸器有害性 区分外  
区分1

GHSラベル要素  
絵表示：



注意喚起語： 危険  
危険有害性情報： 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ  
注意書き： 安全対策 取り扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
応急措置 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。  
無理に吐かせないこと。  
保管 施錠して保管すること。  
廃棄 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物  
成分及び含有量

成分名称	含有量 wt. %	CAS#	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
n-パラフィン C <sub>n</sub> H <sub>2n+2</sub> (n=14~17)	≥98.7	64771- 71-7	2-10	公表	非該当	非該当	非該当

## 4. 応急措置

吸入した場合：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
皮膚に付着した場合：	接触した場合には、石けんと多量の水で直ちに皮膚を洗うこと。汚染した衣服や靴は脱がせること。症状が発生した場合には、直ちに医師の手当てを受けること。  汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
眼に入った場合：	清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合：	無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。
予想される急性症状及び遅発性症状：	誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、吐くことがある。嘔吐中に、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし、致命的となることがある。 皮膚に接触すると、皮膚の乾燥、発赤。 目に接触すると、発赤、痛み。
最も重要な徴候症状：	嘔吐中に、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし、致命的となることがある。
応急措置をする者の保護：	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。火気に注意する。
医師に対する特別な注意事項：	現在のところ有用な情報なし。

## 5. 火災時の措置

消火剤：	粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤：	棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
特有の危険有害性：	可燃性液体 蒸気は空気と爆発性混合気を形成する。 高温の金属表面等に接触したり、燃料管から漏洩した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 燃焼の際は煙、一酸化炭素等が生成される。
特有の消火方法：	散水以外の消火剤で消火の効果がでない大きな火災の場合には散水する。 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。 消火作業を行う者は、空気呼吸器などの保護具を着用し、酸素欠乏および有害ガスから身をまもること。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	作業者は適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、風上から作業する。 消火用器材を準備する。
------------------------	--

環境に対する注意事項：	<p>風下の人を退避させ、漏出場所から人を遠ざける。ロープ等を張り関係者以外立ち入り禁止とする。</p> <p>風上に留まる。</p> <p>低地から離れる。</p> <p>漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。</p> <p>漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。</p> <p>下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。</p>
封じ込め及び 浄化の方法及び機材：	<p>危険でなければ漏れを止める。</p> <p>乾燥した土、砂や不燃材料で覆い、更にプラスチックシートで飛散を防止する。</p> <p>少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ、密閉できる空容器に回収する。吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。</p> <p>大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。</p>
二次災害の防止策：	<p>大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。</p> <p>漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。</p> <p>付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。漏洩物を完全撤去、区域換気と清掃を行う。</p> <p>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策：	<p>8. ばく露防止及び保護措置に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p> <p>熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。</p>
局所排気・全体換気：	<p>指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準を満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。</p> <p>室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行う。</p> <p>換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。</p>
安全取扱注意事項：	<p>混触危険物質と接触しないよう注意する。(10. 安定性及び反応性を参照。)</p> <p>周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。</p> <p>容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。</p> <p>接触、吸入又は飲み込んではいない。</p> <p>眼に入れないこと。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。</p>

### 保管

安全な保管条件：	<p>直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。</p> <p>容器を密閉し、空気との接触を避ける。保管場所に施錠すること。</p> <p>危険物の表示をして保管する。</p> <p>熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。</p> <p>保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。</p>
安全な容器包装材料：	<p>ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避けること。</p> <p>容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。</p> <p>容器は溶接、加工、穴あけ、または切断を行うと、爆発を伴って残留物が飛散することがあるので注意する。</p>

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：	<p>屋内の取扱い場所は局所または全体排気装置を設ける。</p>
-------	----------------------------------

取扱場所の電気機器は防爆構造とし、機器類は静電気対策をする。  
取扱場所の近くに洗眼器、シャワーを設け、その位置を表示する。

## 許容濃度

成分名称	厚生労働省(安衛法)	日本産業衛生学会	ACGIH	
	管理濃度	許容濃度	TLV-STEL	TLV-TWA
n-パラフィン C <sub>n</sub> H <sub>2n+2</sub> (n=14~17)	未設定	未設定	未設定	未設定

## 保護具

呼吸用保護具： 適切な呼吸器保護具を着用すること。  
 手の保護具： 適切な手袋(不浸透性保護手袋)を着用する。  
 眼の保護具： 適切な保護めがねを着用すること。  
 皮膚及び身体の保護具： 適切な顔面用保護具を着用すること。  
 一切の接触を防止するには適切な手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の保護具を適宜着用すること。  
 適切な衛生対策： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。  
 取扱後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観 物理的状态： 液体  
 形状： 液体  
 色： 無色透明  
 臭い： 殆ど無臭  
 臭いのしきい(閾)値： データなし  
 pH： データなし  
 融点・凝固点： 7.5(°C)  
 沸点、初留点及び沸騰範囲： 248-280(°C)  
 引火点： 122(°C)  
 自然発火温度： 203(°C)  
 燃焼の又は爆発範囲： 0.7-5.5(vol%)  
 蒸気圧： データなし  
 蒸気密度： 7.1(空気=1)  
 蒸発速度： データなし  
 密度(g/cm<sup>3</sup>)： 0.770(15°C)  
 溶解度： 水： 0.05(g/L)(20°C)  
 n-オクタノール/水 分配係数： データなし  
 分解温度： データなし  
 その他のデータ： 動粘度： データなし

## 10. 安定性及び反応性

化学的反応性、化学的安定性： 常温、常圧の下では安定である。  
 流動、攪拌などにより、静電気が発生することがある。  
 危険有害反応可能性： 自然発火性、水との反応性共になし。  
 酸化性なし  
 蒸気は空気より重く、低所に滞留して爆発性混合ガスをつくり易い。  
 塩素酸塩類、硝酸塩類との混触により、発火・爆発することがある。  
 避けるべき条件： 混触危険物質との接触。

	加熱
混触危険物質：	酸化剤等
危険有害な分解生成物：	燃焼の際は煙、一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。
その他：	現在のところ有用な情報なし。

## 1 1. 有害性情報

吸引性呼吸器有害性：	ヒトが炭素数6～16のパラフィンを直接吸入すると、肺炎、肺の水腫および出血を起こす可能性があるa)。 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ（区分1）。
------------	--

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	
急性毒性：	情報なし
残留性・分解性：	情報なし
生体蓄積性：	情報なし
土壌中の移動性：	情報なし
オゾン層への有害性：	情報なし

## 1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法：	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処理をすること。 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。
-------	--

## 1 4. 輸送上の注意

国際規制	国連分類：	非該当
国内規制：		下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。 陸上輸送 消防法 危険物 第4類 第3石油類 非水溶性 危険等級Ⅲ 海上輸送 船舶安全法 非危険物（個別運送及びバラ積み運送に於いて） 航空輸送 航空法 非危険物
輸送の特定の安全対策及び条件：		車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人へイエローカードを携帯させること。 運搬容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。 指定数量以上を車両で運搬する場合は、「危」の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。 陸上輸送の場合、運送時の積み重ね高さは 3m 以下とする。 第1類及び第6類の危険物及び高压ガスを混載しない。 輸送用容器（タンカー、タンク車、タンクローリーを除く）は危険物の規制に関する規則別表第3の2項に定めたものを使用する。 その他関係法令の定めるところに従う。

緊急時応急措置指針（ERG）番号：	171
-------------------	-----

## 15. 適用法令

消防法： 危険物・第4類引火性液体・第3石油類非水溶性液体  
海洋汚染防止法： 有害液体物質Y類物質

---

## 16. その他の情報

参考文献等： a) HSDB (2003)  
免責文： 安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは安全の保証書ではありません。